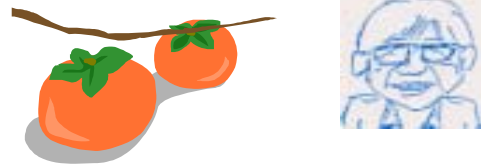


かきのきだいら



VOLUME 2006, NUMBER 10 <http://kiyokawa.katsura.dk> E-MAIL: kiyokawa@katsura.dk

発行責任者 「桂秀光の会」代表 藤川欽一郎 〒253-0017 茅ヶ崎市松林1丁目14番地 電話 0120-981-099



かつらひでみつ
桂秀光のひとりごと

行ってみたい場所は箱根！

私が現在、役員を勤める米国企業の本社があるハリウッドにも程近いカリフォルニア州サンタモニカで、日本に行ってみたら訪ねてみたい所をアメリカ人に尋ねると、一番多く返ってくる答えは意外にも「箱根」です。どうして、「箱根」なのかと具体的に尋ねてみると、大抵のアメリカ人は、「日本で知っている観光地は箱根だから」と答えてくれます。ところで箱根町と清川村を比べてみますと、箱根町にあって清川村にないのは火山だけで、温泉も湖も山々も揃っていて、手つかずの自然や清流は清川村の方が優れていると思われれます。しかも距離的には清川村の方が箱根町よりが東京に近いという地の利があります。にもかかわらずアメリカ人が清川村の名前をあげてくれないのは単に清川村が国際的に知られていないからだけです。

清川村を国際ブランドにするには？

箱根が現在の押しも押されもしない国際観光地に成長できた礎は、外国で紹介されたからで、決して箱根町の地元出身政治家が頑張ったからではありません。灯台下暗しと言いますが、地元出身で地元で活躍して来た方々は、外から見たその地域の本当の魅力に気が付かなかつたり、どうやって海外に自分の地域を紹介すればよいのか、アイデアさえ浮かばなかつたりするものです。世界的な規模で発行されている旅行ガイドブック、たとえば“Lonely Planet(「ロニープラネット」と読む)”(日本で言えば「地球の歩き方」のようなガイドブック)の日本や極東アジアを紹介する版に清川村を大々的に記事として取り上げてもらうようにすることな

ど費用もほとんどかからず、相当の効果を期待できます。また、国際的な規模で配給される米国のハリウッド映画のロケ地として売り込むという作戦も費用はほとんどかからず、もしかすると計り知れない効果をもたらすかもしれません。こういった様々なアイデアで村の名前を国際的に有名にしていくことは可能でしょうが、それを実行するにふさわしい国際感覚、語学力、人脈を兼ね備えた人材を村の指導者として迎入れることがまず必要ではないでしょうか？

なぜ村を有名にする必要があるのか？

もし同じ価格のフランス産ワインと南米チリ産ワインがあったらどちらを選びますか？多くの方はフランス産ワインを選ぶことになると思いますが、それは、フランスワインが、ともかく有名だからであって、科学的データに基づいて美味しいとか安全だからだというわけではありません。事実、フランスにはたくさんの原子力発電所があり、ワイン用のブドウ畑のすぐ隣が原子力発電所だったりするわけです。そのような状況が必ずしも危険とは言えませんが、人情として、原子力発電所の隣で栽培されたブドウから作られたワインはあまり気持ちのよいものではないはず。しかしながらフランスワインが持つ、有名さ、良いイメージは、そういう状況にも負けないブランド力を持っているのです。清川村を国際的に通用する有名な日本の村に育て上げることによって、日本国内外からの旅行者が多数、訪れるようになるだけでなく、清川村で生産される、たとえば、お茶やキノコが、非常に貴重で有り難いものだというブランド力を持つことになり、一般的な市場価格より高値で日本国内外で取引されるようになるはず。また、ブランド力を持った土地には著名な文化人や経済人を含む多くの方々に住みたいと思うようになるもので、これにより村内の不動産価格が上昇に転じることになり過疎や人口の高齢化などといった問題は一挙に解決してしまいます。

村興しの失敗例に学ぶ！

村興し、町興しのために税金を使って何か施設を作るという方法は日本中で行われていますが、費用対効果のほどは、多くの場合、**かんばしくありません**。その最大の理由は、

名前が売れる前に金をかけて立派な施設を作ってみても、その施設に来てくれるお客さんは限られるという認識がないからです。また、日本国内だけを対象に村興しを行ってみても、人口減少国家になってしまっているため、パイが限られるとうことに気が付くべきなのです。今までの平和な生活を維持していければという願いは大切ですが、それを将来にわたって実現していくためには、村の名前を国際的に認知させ、中央政府が一目も二目もおく、ブランド力を持った村に育て上げていくことが必要だと思えます。そういう将来展望がないと村民にとって最悪の場合、大きな都市の一部に併合され、大切にしてきた村の伝統やコミュニティーが失われ、税金などの公的負担だけは増加し、しかも実際に生活する上での不便さは併合される前より増加するという危険をはらんでいたりします。(裏面へ続く)

桂秀光紹介

昭和31年(1956年)7月東京都生まれ。小中高時代、川釣り好きの父の影響で家族と共に休みにになると清川村を訪れ、煤ヶ谷から大山への登山を毎年数回行うという少年時代を過ごす。小学校時代に茅ヶ崎市に移り住む。既婚。現在、妻は横浜市にある桂太郎元首相が創設した病院勤務。茅ヶ崎市松林で両親と妻の4人暮らし。茅ヶ崎市立鶴が台小、桜美林中・高、東海大理学部化学科卒。東京理科大学専攻科化学専攻、東京水産大(現在の東京海洋大)大学院水産学研究科修了。東京湾の海底の泥に含まれる重金属の存在状態を研究し学位取得。米政府招聘によりサウスダコタ州立大学で地球環境を研究。自ら飛行機を操縦し地球環境の研究に取り組む。米化学会会員。小田原少年院法務教官、育英高専(現在のサレジオ高専)講師、武相高講師、品川区立荏原第四中、品川区立伊藤中、千代田区立麴町中、都立大森高定時制、都立大森東高全日制で理科・化学担当教諭を歴任。2001年、対教師校内暴力事件の被害者となったことをきっかけに20年以上続けてきた教員生活を辞め、フランス系英国人が経営し米国カリフォルニア州に本社がある航空企業 PROTEUS AIR SERVICES INC.の役員に就任し、現在に至る。桂太郎元首相と桂誉子茅ヶ崎市ボランティア連絡会初代会長の人類愛の思想を受け継ぎ、金勘定ばかりが優先する現在の行政のあり方を憂い、2003年に行われた茅ヶ崎市長選挙、衆議院議員選挙に出馬し惜しくも落選。趣味のアマチュア無線活動(コールサイン JR1UTS)を通じブルネイ王家と交友を深める。社団法人日本アマチュア無線連盟会員、同連盟監査指導委員を歴任し、1989年、同連盟会長から表彰を受ける。



かつらたかこ
桂誉子の人間らしく！

思い出してみよう、40年前、私が民生児童委員になった時、今のようにボランティアとか福祉の声も少なく、その中で心に残った一言は民生児童委員研修会での講師のお話、「民生児童委員は困っている人の味方になること」。その言葉が今や福祉花盛りにみえる世の中で聞こえてこない残念さ。外見上、様々な施設やサービスは整備されていますが、中身は、部屋のトイレにドアがなく、カーテンだけだったり、両側壁で閉ざされた電話もなく外界から閉ざされた「ボケてください。」といわぬばかりの施設だったり。私と共に幼少の頃から高齢者問題をみてきた息子秀光は、30年以上前から最後まで人間らしく暮らせる社会を築くべきだと言いつけてます。

桂誉子紹介

昭和4年(1929年)東京都生まれ。民生児童委員、神奈川県行政調査委員を歴任。茅ヶ崎市ボランティア連絡会を設立し初代会長として活躍。

「桂秀光の会」紹介



ふじかわきんいちろう
「桂秀光の会」代表 藤川欽一郎

本誌名「かきのきだいら」は、桂秀光が小学校時代、本厚木から宮ヶ瀬に向かうバスで乗り物酔いになり、生まれて初めて清川村に降り立ったのが、柿ノ木平バス停であったことにちなみ命名されました。本誌への御投稿、桂秀光の政策について御質問、御意見、御提言を歓迎致します。「桂秀光の会」は私の恩師、桂秀光を後援するため設立した政治団体です。御入会は下記の申込書を御送付ください。

「桂秀光の会」入会申込書	
ふりがな	
御名前	
郵便番号	
御住所	
電話・FAX	
e-mail	

© Society for Hidemitsu KATSURA 2006